

1		
言葉	言葉の力をつけよう（音読1年⑤） 〔古文「竹取物語」〕	
	名	前

★小学校の古典の学習を踏まえ、中学校では本格的に古典の学習をします。文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れましょう。次の「竹取物語」は、現在伝わっている日本の物語の中では最古のものといわれています。

やってみよう

竹取物語

今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづズのことに使イひけり。名をば、さぬきのみやつことなむンいひける。その竹の中に、もと光る竹なむン一筋ありける。あやしがりて、寄ヨりて見るに、筒つつの中光りたり。それを見れば、三寸さんすんばかりなる人、いとうつくしうシュウてゐたり。

《口語訳》

今ではもう昔のことだが、竹取の翁とよばれる人がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろな物を作るのに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。

（ある日のこと、）その竹林の中に、根本の光る竹が一本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光っている。それを見ると、（背丈）三寸せたく さんすんほどの人が、まことにかわいらしい様子で座っていた。